

単元名 日本と西洋の音楽文化を比較しよう

1. 単元の目標・ねらい

この単元では、「人間と人間の文化について学ぶ」ためのアプローチとして、文化事象を音楽の面から捉えてみた。特に、西洋と東洋（日本）の音楽文化や考え方の違い、その背景となるものを探ることによって、それぞれの多様な文化的特徴を理解すると同時に、文化の差異がもたらすさまざまな音楽の面白さ、素晴らしさを生徒達に感じ取らせることをねらいとする。

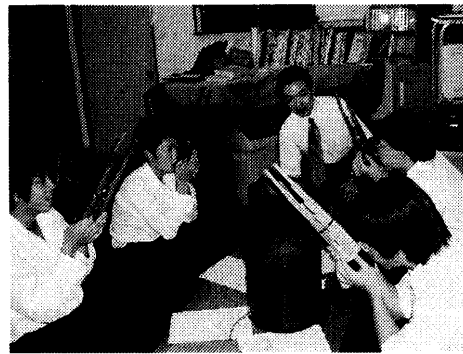
世界中にはさまざまな音楽が存在するが、今日我々を取り巻いている音楽の多くは西ヨーロッパ圏を中心として発達してきた音楽がもとになっている。しかし、世界各地の民族音楽や日本の伝統音楽など、素晴らしい音楽が数多く存在するのに、西洋の音楽に比べるとそれらが一段低いもののように受け止められる傾向があるのは、それらの音楽の背景にある文化への理解の欠如が原因ではないだろうか。

音楽の授業では雅楽を始め、さまざまな日本の伝統音楽を取り上げているが、単に西洋の音楽との比較において日本の伝統音楽を紹介するだけでは生徒の心には残らない。その根底にある、音や音楽に対する考え方の違い、美意識の違いを理解できてはじめてその良さや面白さが実感できる。

一例を挙げれば、西洋では合理的な価値観から五線を使った楽譜が作られ、共通の記号＝音符を用いることによって、誰もが簡単に音楽を楽しむことができるようになった。それに対し、日本の伝統音楽では楽譜は二義的なもので、音楽は師匠が弟子に口伝で教えていくのが一般的であった。楽譜にしても、その表記は楽器ごと、流派ごとに異なっており、誰もがそれを見て演奏するのは容易ではないという印象を受ける。それは、日本の伝統音楽全般が個性、多様性、間（ま）、演奏に至るまでのプロセスなどを重視した価値観を持っているからで、このような価値観の相違を知ることがそれぞれの音楽の良さを知ることに通じるものと思われる。

合奏形態にしても、その価値観の相違は顕著で、西洋ではオーケストラにおける指揮者の存在が示すように、音楽を一糸乱れずぴったりと合わせる事が重要視される。それに対して日本の伝統音楽では、雅楽や歌舞伎などの大人数の合奏形態でも指揮者は存在せず、完璧に合わせる事は重要ではなく、むしろ微妙なズレやテンポの揺れを楽しむ傾向がある。そして指揮者を持たない代わりに、お互いの動作を感じとりながら合わせたり、かけ声をかけることによって合わせたりしている。そういうところにも、西洋の合理的な価値観と日本の個性や間を重視した価値観との相違が現れているのではないだろうか。

また、生徒達にとって比較的馴染みの薄い日本の伝統音楽の文化的背景を知るためには、実際に自分達で演奏を体験することが一番の近道であると考え、演奏の専門家を招いて伝統音楽の指導をしてもらうとともに、素晴らしい演奏を生で鑑賞する機会をもった。そのことによって、生徒達は日本の伝統音楽の素晴らしさ、奥の深さ、西洋の音楽にない独特の価値観などを身をもって理解できたように思える。



2. 評価の方法・観点

この単元における生徒の活動の中心は鑑賞と表現であるが、それらの活動を通して、生徒がいか
に和洋の文化の特質や、文化を生み出した社会の価値観を理解できたかが重要になる。そのため
の評価の方法としては、毎時間の生徒の活動の様子を観察したり、学習のさまざまな過程での記述や
発表、学習後に記述する感想や気付きなどから判断して行った。

主な評価の観点とその内容としては次のものが挙げられる。

【思考力・理解力】

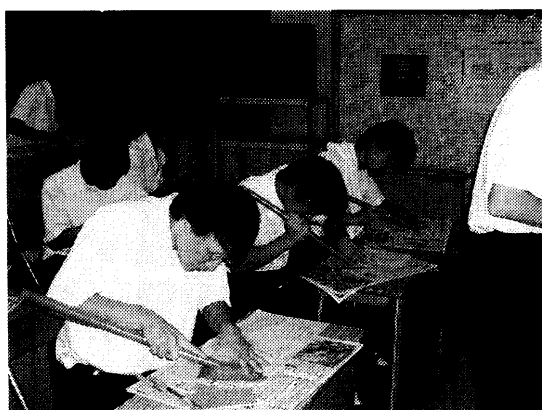
- ・楽譜、合奏形態、伝統音楽、歌声などのテーマについて、提示された資料を適切に読みとり、
整理しているか。
- ・比較の活動を通して、さまざまな音楽を生み出した文化の特質や、その背景にある社会の価値
観がどのようなものかを自分の力で考え、理解しているか。

【関心・意欲・態度】

- ・さまざまな音楽の特徴に興味・関心をもち、注意して鑑賞しているか。
- ・演奏に積極的に取り組み、他の生徒と協力し合って活動をしているか。
- ・伝統音楽のさまざまな奏法に意欲的に取り組んでいるか。

【表現の能力】

- ・いろんな演奏活動の場で、自分なりに工夫して表現しているか。
- ・自分の感じたこと、考えたことを記述や発表などを通し、的確に表現できているか。



3. 単元計画 日本と西洋の音楽文化を比較しよう (配当時間計 14時間)

題目 (配当時間)	学習内容	指導上の留意点
(1) 楽譜を通して日本と西洋の音楽文化を探る。 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を自分なりに考案する。 ・西洋の楽譜がどのような発達を遂げて今日の姿になったのかを辿る。 ・グレゴリオ聖歌をネウマ譜で実際に歌ってみる。 ・日本の伝統音楽の楽譜について西洋の楽譜と比較しながら考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な発想で考えさせる。 ・作った楽譜が西洋の楽譜の歴史に重なることを示す。 ・音や映像、実際の楽器などを使い楽譜を目と耳との両方からとらえさせる。 ・西洋の楽譜の統一性、日本の楽譜の多様性についてその理由を考えさせる。
(2) 合奏形態の違いから西洋と日本の価値観の違いを探る。 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・指揮者の役割について考える。 ・オーケストラと雅楽、オペラと歌舞伎の合奏形態を鑑賞・比較する。 ・日本の伝統音楽の合奏形態の特徴をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋のオーケストラとの比較において日本の音楽の合奏形態が指揮者なしでどうやって合わせているか、また指揮者に代わるものは何かをポイントに考えさせる。
(3) 日本の伝統音楽にチャレンジしよう。 ～雅楽・尺八・箏～ (各2時間、計6時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・講師による各楽器の歴史や音楽、奏法についての講義を聞く。 ・講師による楽器の演奏、合奏を鑑賞する。 ・各楽器の楽譜の読み方について学習する。 ・唱歌(しょうが)の練習をする。 ・塩ビパイプで尺八を作り、演奏する。 ・なぜ日本の箏には多様な奏法が生まれたのかを考察する。 ・講師の指導で「雅楽」「尺八」「箏」の演奏を行い、日本の伝統音楽の面白さを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの楽器の多彩で特徴ある音色や独特の間(ま)に注意して、講師の演奏を鑑賞する。 ・尺八は音色に影響する吹き口の形状に注意して製作する。 ・箏は、様々な奏法を各自で試させ、新しい奏法も考案させる。 ・雅楽は、楽器ごとにグループ分けをし、講師の指導のもとで練習させ、その後合奏する。 (使用する楽器) 笙、篳篥、龍笛、釣り太鼓、鞆鼓、鉦鼓、楽箏、和琴など。
(4) 文化の違いによる発声や歌い方の違いを探る。 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界中の様々な地域のユニークな発声や歌を取り上げ、その背景にある文化について考える。 ・「ホーミー」「ケチャ」を実際に体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく多くの例を鑑賞し、異文化に対する興味、関心を喚起する。 ・時間があれば、「ヨーデル」「民謡」「地声発声」なども体験させる。 ・単に珍しくて変わっているものという印象に終わらないよう注意する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の感想や気づき、今回の学習を通じて理解できたことなどを記述し、発表する。 ・教師によるまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統音楽を理解することで見えてくる、日本と西洋の文化の相違点、価値観の違い、それぞれの良さなどに焦点を当てる。

評価の観点と方法	教科学習とのつながり など
<p>【思考・理解力】【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 創意・工夫が見られるか。 ・ 楽譜を通して、西洋と日本の音楽文化の違いが理解できているか。 ・ 西洋の楽譜および演奏法の変遷や、日本の楽譜の特徴をとらえているか。 (作成した楽譜，学習カードへの記述) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リズム・音程を，図形等のイメージに変換して表現する力 (美術) ・ 西洋の中世・ルネサンスの文化や歴史に関する知識と理解 (歴史) ・ 日本の伝統音楽に対する知識と理解 (音楽)
<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋の音楽における指揮者の重要性に気付いているか。 ・ 一糸乱れず合わせることを目指す西洋の文化と，そうではない日本の文化の比較ができているか。(生徒の感想・気付きの記述) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指揮によって音楽表現がどう変化するかを感じる力 (音楽) ・ オペラや歌舞伎が興った歴史的な背景に対する知識と理解 (歴史)
<p>【関心・意欲・態度】【表現の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講師の演奏を音色，奏法等に注意して鑑賞することができたか。 ・ 演奏活動に積極的に取り組んでいるか。 ・ さまざまな奏法を自分なりに工夫しているか。 ・ よい音が出るよう工夫して製作をしているか。 ・ 音色や間（ま）を大事にする日本の伝統音楽の特質が理解できているか。 (活動の様子の観察) (生徒の感想・気付きの記述) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本と中国，朝鮮半島の歴史的な文化交流に対する知識と理解 (歴史) ・ 日本の伝統音楽に用いられる様々な言葉の理解 (国語・古典) ・ 楽器の特徴を生かした演奏の工夫，他を聴きながら合わせようとする合奏能力 (音楽) ・ 形状や材質を考慮した工具の使い方 (技術) ・ 楽器の音律，音響に関する知識 (音楽・物理)
<p>【関心・意欲・態度】【表現の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの声や歌が地理的，歴史的な背景と結びついていることを理解しているか。 ・ 積極的に表現しようとしているか。 (活動の様子の観察) (生徒の感想・気付きの記述) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界各国の地理的，歴史的な背景に関する知識と理解 (地理・歴史) ・ 発声やリズムの面白さを感じながら演奏する能力，表現力 (音楽)
<p>【思考・理解力】【表現の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの学習を振り返り，日本と西洋の音楽文化の特徴，それぞれの価値観の相違を明確にすることができる。 (生徒のまとめの記述，発表の様子) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことを総合的にとらえ，相手に分かるように文章にまとめたり，発表したりする能力 (国語)